

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071602074
法人名	学校法人 久留米ゼミナール
事業所名	グループホーム 野中つつじ苑
所在地	福岡県久留米市野中町771-1 (電話) 0942-39-2700

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年7月5日	評価確定日	平成19年8月23日

【情報提供票より】 (平成19年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	22 人 常勤 14人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建ての 2 ~ 3 階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都内科医院・新古賀病院・毛利歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部に近く、文化施設圏内という環境にある事業所は、予備校の学生寮をリフォームした洋風な建物で、玄関廻りには季節の花が咲き、閑静な住宅の中にある。共用空間には、利用者手作りのこよりで飾られた七夕飾りなどがあり、季節感に配慮している。心身機能改善を目指して外出散歩の機会を多く持ち、車椅子から杖歩行へなどと、介護度が改善した利用者もいる。苑長はじめ全職員は、高い介護への意識を持ち、介護サービスの質の向上に取り組んでおり、利用者間・職員間の人間関係が良好な事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題を職員で話し合い、改善計画を作成して、気軽に入れる玄関廻りの配慮等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が骨子を作り、全職員の意見を取り入れて作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会を実施し、介護計画や外部評価の報告等を行っている。委員からの意見・要望・質問をもらい、自治会への働きかけや駐車場の拡張等、そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見相談窓口について、ホーム便りや事業所玄関に明示し、家族の意見を積極的に聴くよう努めている。事業所の案内板やスロープの手すりを設置する等、家族からの意見を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。ホーム便りを回覧板で回覧し、ごみ当番や祭り等に参加している。近隣の幼稚園との交流もある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	分かりやすく優しい言葉で事業所独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスについての視点が含まれていない。	○	全職員で協議等を行い、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、ユニット毎の事務所に提示し、管理者職員は毎朝礼時確認し、理念の実践に向け取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。ホーム便りを回覧板で回覧し、ごみ当番や祭り等に参加している。近隣の幼稚園との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は、全職員が理解している。前回評価での改善課題を職員で話し合い、改善計画を作成して、気軽に入れる玄関廻りの配慮等、具体的な改善に取り組んでいる。自己評価は管理者が骨子を作り、全職員の意見を取り入れて作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会を実施し、介護計画や外部評価の報告等を行っている。委員からの意見・要望・質問をもらい、自治会への働きかけや駐車場の拡張等、そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者に相談したり、グループホーム協議会で成年後見制度の勉強会を担当してもらったり、2ヶ月に1回発行のホーム便りを届けた際に事業所の状況を説明する等の働きかけを行い、サービスの向上の質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政担当者から制度に関して指導を受けているが、全職員の理解には至っていない。人権権利擁護関係のファイルは、職員がいつでも見られるように保管している。	○	制度に関する研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	24時間、家族の訪問を受入れている。ホーム便りの発行時や定期的な連絡時に、詳細に近況報告をし、金銭管理は月毎に収支をまとめ、家族に開示している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見相談窓口について、ホーム便りや事業所玄関に明示し、家族の意見を積極的に聴くよう努めている。事業所の案内板やスロープの手すりを設置する等、家族からの意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・退職時には1ヶ月の引継ぎ期間を設け、利用者のダメージを極力抑えるよう努めている。事業所全体で利用者と馴染みの関係が構築できるよう、職員の配置に配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>公平性を持ち、採用には性別・年齢で排除せず基本的な人権を尊重している。また、一人ひとりのキャリアに留意し、生き生きと働きながら社会参加や自己実現の特技を活かせるよう、環境作りを図っている。研修の受講や勤務体制等について、職員の意思を確認し、尊重している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>苑長・管理者は利用者に対する人権尊重を重んじ、行政主催の研修会に参加して、職員への内部研修を行っている。人権権利擁護に関する資料はファイルしている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者及び職員は外部研修に参加し、その後は内部伝達を行い、資料は順次回覧している。また、管理者は、職員の経験・力量に応じた研修会・資格取得について、職員に推奨している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム協会や介護サービス事業者協議会グループホーム部会に加入し、交流とサービスの質の向上を図っていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用に至るまで、職員が利用者の自宅等へ訪問している。顔馴染みになり、日帰りや宿泊体験をしてもらって、本人の納得の上でサービスの利用を決めている。場の雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一人ひとりの利用者の気持ちを大切にし、共に笑い、食べ物を大切にする習慣に共鳴したり、野菜の下ごしらえの教をを乞う等、共に支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族から意見や利用者の生活歴、利用者の何気ないしぐさ等から、本人の意向・希望を把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がその人らしく暮らせるように、本人や家族の要望を詳しく聴き取っている。全職員で月1回のカンファレンスや3ヶ月1回のモニタリングを行い、全員の意見を活かした介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居3ヶ月後に介護計画を見直し、その後は6ヶ月毎に定期見直しをして、本人や家族の意向・気づきを取り入れて作成している。状態変化時には、随時家族と話し合って作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した場合は見舞いをし、家族や医療関係者と連携を図って、早期退院に向けた支援を行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医で受診できるように職員が車で送迎する等、支援している。また、利用者や家族があらゆる選択肢を可能に出来るよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、事業所でできる支援について説明している。本人・家族の意向を聴き、本人・家族等の納得の上で、方針を関係者全員で話し合って共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	高齢者虐待防止や個人情報保護の関係資料等を、職員がいつでも見られる所に置いている。職員同士で声をかけ合って注意しており、プライバシーを害する言葉・態度は見受けられない。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは基本的にあるが、利用者の思いを汲み取り、一人ひとりの体調等を見ながら、買い物等希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが食事を楽しめるよう配慮をしている。検食の一人だけ同じものを同じテーブルで食し、他の職員は利用者の食事介助の後に、利用者が見える別のテーブルで、持参の弁当を食している。	○	利用者と職員が同じ物を同じテーブルと一緒に味わいながら、利用者にとって食事が楽しいものとなるように支援してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望やタイミングに合わせて、毎日入浴を支援している。職員は利用者の好む時間帯を大まかに把握し、体調等を考慮して、利用者に声かけしている。入浴拒否の人には、時間をおいたり、対応する職員や言葉かけに配慮し、時には家族の協力を得ながら支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>掃除・洗濯・草取り・水巻き・料理の下ごしらえ・ゴミだし・裁縫・将棋・カラオケ等、一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日には、散歩や外気浴をしている。月1～2回の外食や花見、遠出、買い物等、利用者の希望にそって支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関前の道路は車の通りが多いため、玄関は自動施錠している。外出希望時は開錠し、職員と外出している。施錠については、家族の同意を得ている。居室の施錠はしていない。</p>	○	<p>利用者の安全を図りながら、日常的に玄関の鍵をかけないケアや工夫をしてほしい。</p>
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、消防署の協力を得て防災訓練を行い、マニュアル作成している。全職員は普通救命講習会を受け、夜間想定避難訓練や通報訓練等もやっている。</p>	○	<p>今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品の準備などを行ってほしい。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分摂取量は記録し、把握している。栄養士が一人ひとりの栄養バランスや嗜好等に配慮し、食品成分や一日のカロリー計算を3ヶ月毎に計算している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間にソファや椅子を所々に設置し、テーブルには季節の花を飾り、また七夕飾りがある等、季節感を採り入れ、家庭的な雰囲気に配慮している。職員の声のトーンやテレビの音量は大きすぎず、共用空間は明るく開放的である。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テーブル・椅子・テレビ・小物・筆筒・仏壇・冷蔵庫等、利用者の使い慣れたものが持ち込まれている。壁には家族の写真・自作の文芸作品が飾られ、一人ひとりの個性のある居心地のよい居室となっている。</p>		

※ は、重点項目。